

第6章 文化財の保存・活用に関する現状と課題

将来像の達成のための課題を前章で掲げた3つの方向性に沿って整理します。

1 「文化財の保存、伝承」に関する現状と課題

(1) 多様な主体との連携による計画的な文化財調査の実施に関する現状と課題

松山らしさを表す文化財を後世に伝承するためには、文化財に関わる多様な主体と連携しながら、その対象を明らかにすることが必要ですが、そのためには、下記①～③の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①遺跡や埋蔵文化財等の調査に関する現状と課題

● 現状

土木工事の届出に伴う試掘調査や発掘調査、史跡整備に伴う発掘調査が松山市や愛媛大学で実施されていますが、久米官衙遺跡群を筆頭として出土物の整理作業を含む屋内調査や報告書の刊行の遅れが見られます。また、開発の盛んな地域と郊外や島嶼部などで調査研究に偏りががあります。

● 課題

- ・遺跡や埋蔵文化財について、十分な調査が進められていない

②文化財指定・登録等に向けた調査に関する現状と課題

● 現状

近年、松山市では、建造物の所有者から指定登録への要望が増大しているものの、指定登録に向けた調査が間に合わないことで、失われる例が出始めているなど、適切な保存につなげるための調査が十分に行えていません。また、四国遍路の世界遺産登録については、様々な関連団体や教育機関と連携して、今後も引き続き調査を行う必要があります。

● 課題

- ・地域で大切にされている文化財について、指定登録等に向けた調査を十分に行えていない

③地域が主体となった文化財の把握と調査に関する現状と課題

● 現状

アンケートやワークショップ、本計画作成の過程で実施した調査状況の現状把握をふまえると、主に、有形文化財(建造物)と有形文化財(美術工芸品)、地域に残る行事や祭礼などの無形の民俗文化財に関する調査の実施状況に地域間で濃淡があり、文化財の把握が全市的に行われているとはいえません。さらに各地域で実施された調査や把握について、市内全域を取りまとめた資料がない状況にあります。

● 課題

- ・地域ごとに文化財の調査状況に偏りがあり、全市的な文化財の把握ができていない

(2) 文化財をき損・滅失から守るための体制や仕組みに関する現状と課題

価値や現状が明らかになった文化財をき損・滅失から守るためには、適切な保護と管理を行うための体制や仕組みを充実させる必要がありますが、そのためには、下記①～④の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①文化財の適切な保護と管理に関する現状と課題

● 現状

松山市では、文化財保護法や愛媛県文化財保護条例、松山市文化財保護条例に基づき、指定文化財や埋蔵文化財に関する各種の事務手続や、関係省庁・部署との調整、文化財所有者等への指導等を行っており、今後も法令に基づき適切な執行が求められています。

● 課題

- ・引き続き、文化財保護法や条例に基づいた文化財の適切な保護と管理を行う必要がある

②文化財の防災・防犯対策に関する現状と課題

● 現状

協議会では、災害時にどのように対応するか明確でないという意見があったほか、社寺の防犯や防火が懸念されると指摘がありました。また、文化財の防災・防犯対策においては、設備面での対策だけでなく、日頃からの防災・防犯意識の醸成につながる普及啓発や防災訓練等が重要であるものの、それらを十分に行うことができていません。

● 課題

- ・文化財の防災体制の構築が不足している
- ・文化財の所有者や管理者の防災・防犯意識を高めるための取組が十分に行われていない

③文化財の適切な評価と計画の策定・推進に関する現状と課題

● 現状

近年、歴史的な価値があると思われるものの、指定や登録が進まず、適切な保存ができていない文化財が増えつつあります。また、適切な価値評価のもと、保存・活用を行うための計画の策定と推進を行う文化財が増えてきましたが、一部の文化財に限定されています。

● 課題

- ・適切な保存を行うための文化財の評価、また評価をふまえた計画の策定・推進が一部の文化財でしか行われていない

④文化財所有者を支える仕組みの検討に関する現状と課題

● 現状

民間所有の文化財の保存状態や管理・修理状況の把握ができていないものが多いことや、文化財の修理に関する情報が収集できないことが協議会やアンケートで指摘されているなど、文化財の現状が十分に把握できていません。また、高齢化や資金不足により、文化財の維持管理・保存が困難な所有者がいるものの、行政に気軽に相談できないことも指摘されました。

- 課題

- ・民間所有の文化財の保存・修理状況の把握ができておらず、保存方法が確立されていないものがある
- ・高齢化や資金不足などを理由に文化財の維持管理が困難になっている所有者がいるが、所有者を支える仕組みがない

(3) 文化財の適切な保存修理・保存整備に関する現状と課題

文化財の適切な保存・伝承を行うためには、計画的な修理や整備を実施する必要がありますが、そのためには、下記①②の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①保存修理や防災対策工事等の計画的な実施に関する現状と課題

- 現状

建造物等の有形文化財については、適切な方法とサイクルによって計画的に保存修理することが求められているほか、文化財全般において、老朽化した防災施設の更新や環境整備が必要となっています。特に、民間所有の文化財については、適切な修理サイクルを維持することが困難であることや、災害などの危機的状況に迅速に対応することが困難となっていることから着実に実施することが求められています。

- 課題

- ・適切な方法とサイクルによって計画的に保存修理を行わなければならない
- ・防災施設が不十分または老朽化している文化財があり、災害対策が十分でない
- ・民間所有文化財の保存修理・防災設備整備を適切なタイミングで行うことができていない

②文化財の保存・活用に向けた整備の実施に関する現状と課題

- 現状

市民アンケートなどにおいて、史跡等の記念物の多くが未整備で案内や説明が不足しており文化財の価値や魅力が伝えられていないことや、訪れたいような環境整備がなされていないという指摘がありました。また、文化財を訪ねるための案内が不足しており、どこにあるのか分からないという現状があります。

- 課題

- ・文化財の情報を伝える看板や案内等が整備されておらず、情報提供が不十分なものがある
- ・文化財を公開する上での設備や整備が不十分なものがある
- ・文化財の本質的な価値を維持しながら、多くの市民の目に触れてもらうための設備整備が不足している

(4) 文化財の保存・活用の拠点となる博物館施設に関する現状と課題

文化財の保存・伝承を確実に実施するためには、その拠点となる博物館施設を適切に管理し、運営の充実を図る必要があります。また、将来に向けて博物館施設の望ましいあり方を追求しなければなりません。そのためには、下記①②の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①文化財に関する施設の適切な管理と運営の充実に関する現状と課題

● 現状

松山市内には、各分野に特化した博物館施設が多くあり、社会教育や学校教育のほか、観光面でも活用がされています。今後も引き続き施設を拠点に、市内外に松山市の歴史文化を伝えていくことが求められます。

● 課題

- ・各分野に特化した普及啓発を引き続き行うために、展示機能のより一層の充実、継続した管理運営が求められる

②保存・活用の拠点となる施設のあり方の検討に関する現状と課題

● 現状

市民アンケートや公民館アンケートでは、松山市内には文学や考古学の専門的な博物館は充実しているものの、広く身近な文化財に触れることができる施設や民間所有の資料の保管や展示を行える場所がないとの指摘がありました。協議会においても、歴史文化を総合的に取り扱う博物館や文書館などの施設がなく、文化財の適切な保存公開活用に支障をきたしているとの意見がありました。

● 課題

- ・文学や考古学など、分野に特化した博物館施設はあるが、文化財全般を取り扱う施設がない

2 「文化財の保存・活用の体制」に関する現状と課題

(1) 文化財の保存・活用に関わる市民や団体の人材確保・育成への支援体制に関する現状と課題

文化財の保存・活用に携わる市民や団体が活発に活動することで松山の未来は紡がれますが、市民や団体への支援には、下記の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①文化財の保存・活用に携わる団体への支援に関する現状と課題

● 現状

市民アンケートや公民館アンケートでは、地域の高齢化が進み、文化財の保存・活用を行う指導者や担い手が不足しており、次代を担う人材の育成が進んでいないことから文化財の継承が困難になっているという声が多く寄せられました。また、適切に保存・活用していくための活動資金が不足しているとの声が上がっています。

● 課題

- ・文化財の保存・活用に携わる担い手の高齢化が進み、歴史文化を伝えていく人材が減少している
- ・文化財の保存・活用に携わる人材の育成が十分になされていない
- ・文化財の保存・活用の取組のための活動資金・財源が不足している

(2) 文化財の保存・活用に関わる市民や団体の活動へのサポートに関する現状と課題

市民や団体が活動しやすい環境を整え、サポートすることで、文化財の保存・活用に関わる体制を充実させ、将来像に近づけることができますが、そのためには、下記①②の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①市民や団体の活動の拠点となる場所づくりに関する現状と課題

● 現状

ワークショップの参加者からは、文化財を保存・活用するための活動場所が不足している点が指摘されているほか、活動内容を発表、報告する場所が不足しているとの意見が多く聞かれました。

● 課題

- ・文化財の保存・活用の担い手の活動の拠点となる場所が不足している
- ・文化財の保存・活用の担い手がその活動を発表・報告できる場所が不足している

②市民や団体がつながる仕組みづくりに関する現状と課題

● 現状

ワークショップの参加者からは、文化財の保存・活用を行いたいと思っても、所有者や管理者が分からず連携がとりにくいといった指摘がありました。文化財の保存・活用を行いたい団体や人と、所有者が繋がりにくい現状があります。

● 課題

- ・文化財の所有者と文化財の保存・活用を行いたい団体や人、市民との情報共有や連携が十分にできていない

(3) 行政内部と関係機関による保存・活用の推進体制に関する現状と課題

文化財の保存・活用を推進するためには、行政内部の体制強化や関係機関との連携が必要ですが、そのためには、下記の現状を踏まえた課題を解決することが必要です。

①推進体制の構築に関する現状と課題

● 現状

公民館アンケートやワークショップでは、市役所や教育委員会内部で歴史文化、文化財に関する問い合わせ窓口が異なり分かりにくいなど横の連携が不足しているのではないかという指摘がありました。また協議会では、市民活動と公民館活動、行政との連携が少ないのではないか、各施設が所蔵している文化財について、有効活用できていないという意見がありました。各施設や窓口に学芸員などの専門職員が不足しているため、全体的に保存・活用の推進体制が確立できていないという状況があります。

● 課題

- ・ 庁内での連携や庁外の団体との連携をうまく図ることができていない
- ・ 学芸員などの専門職員が不足している

3 「文化財を地域で活かすこと」に関する現状と課題

(1) 文化財の価値や魅力の発信と共有に関する現状と課題

文化財を地域で活かすためには、市民ひとりひとりが文化財を身近に感じられるように、文化財の価値や魅力を発信し、皆で共有する必要がありますが、そのためには、下記①②の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①魅力を伝えるためのイベントの実施に関する現状と課題

● 現状

市民アンケートでは、多くの市民が地域の歴史文化に対する興味が薄いのは、文化財の価値や継承する意義が広く伝わっておらず、その魅力に触れるイベント等の機会が少ないからではないかという意見が多く寄せられました。時代に則した多様なイベント開催が不足しています。

● 課題

- ・市民が気軽に歴史や文化に触れられる機会が少なく、歴史文化、文化財の魅力や価値が十分に伝わっていない

②魅力を伝えるための情報の発信に関する現状と課題

● 現状

市民アンケートでは、SNSやアプリなど文化財に関する情報発信が不足しており、文化財に関する情報に接する機会が少ないという意見がありました。また、市が主体の調査のほか、公民館を中心に地域で調査した文化財の情報の集約や、市内の文化財を総覧できる冊子の更新が間に合っていない。公民館アンケートでは、市や地域が発行する文化財に関する冊子やマップの内容が古い、またはそういったものが無く、市民への情報発信が不足していると指摘されるなど、最新の情報が市民に伝わっていません。

● 課題

- ・ホームページや SNS、映像、まち歩きのマップなど、市民が気軽に文化財の情報に触れられる機会が不足している
- ・市や地域が調査した文化財の情報を集約・更新する仕組みがなく、市民に最新の情報が十分に伝えられていない

(2) 社会教育や学校教育を通して市民が文化財に触れる機会に関する現状と課題

市民ひとりひとりが文化財の価値や魅力を知るためには、社会教育や学校教育を通してそれらに触れる機会を創出することが重要ですが、そのためには、下記の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①文化財の社会教育での活用に関する現状と課題

● 現状

協議会では、松山城や道後温泉などの主要な文化財では、観光客に向けた活用が多く、市民が親しむ機会が少ない状況があると指摘されました。市民アンケートでは、地域の歴史文化に触れる機会が少なく、生活との結びつきが希薄な人が多いことが明らかになりました。また、祭りなどの地域の歴史文化に関する行事に参加する人が少なくなっており、参加者の高齢化や固定化が進んでいます。社会教育の

中で、文化財に実際に触れて学ぶ機会が減少している現状があります。

- 課題

- ・既存の文化財の活用の取組は、観光客向けのものが多く、市民に向けた活用が不足している
- ・地域住民が自分の住む地域の歴史文化について知り、学ぶことができる機会が不足している

②文化財の学校教育での活用に関する現状と課題

- 現状

協議会では、小中学生を対象にした歴史文化がテーマのフィールドワークが減少していることや、発掘調査現場説明会など文化財に触れる機会が小学生の参加者が減少していることが指摘されています。また、市民アンケートにおいても、学校教育の中で子どもたちが歴史文化に触れる機会の少なさを懸念する声が上がりました。

- 課題

- ・子どもたちが自分の住む地域の歴史文化について知り、学ぶことができる機会が不足している

(3) 文化財の松山市の資源としての適切な活用に関する現状と課題

文化財の持つ価値や魅力をまちづくりの様々な場面で適切に活かし、地域活性化を図りながら守り伝えていくことで松山の未来を紡ぐ好循環を生むためには、下記の現状を踏まえた課題を解決する必要があります。

①文化財を活かしたまちづくりによる地域活性化に関する現状と課題

- 現状

協議会では、文化財を活用する際の方針や指針が明らかでなく、市民や文化財所有者、民間企業が連携して文化財を観光資源として活用する仕組みがないとの指摘がありました。また、市民アンケートでは、街並みなどに歴史文化に則した統一的な整備活用が図られていないという意見や、文化財がまちづくりや地域活性化に有効活用されていないのではないかという意見がありました。

- 課題

- ・市民や所有者、運輸業者や観光業者などの関係者と連携した観光分野での活用の仕組みが十分でなく、文化財の持つ価値を十分に理解した上での活用ができていない
- ・松山の歴史文化を醸し出す街並みが十分に保存、整備できていない
- ・文化財を活かしたまちづくりによる地域活性化が図れていない